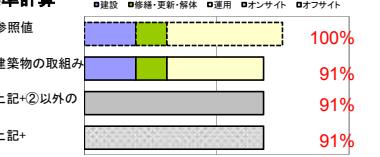
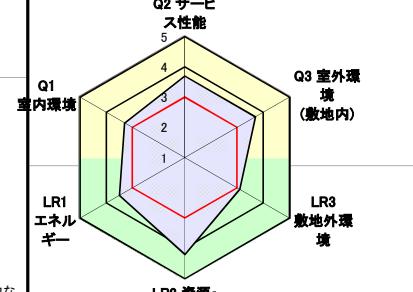
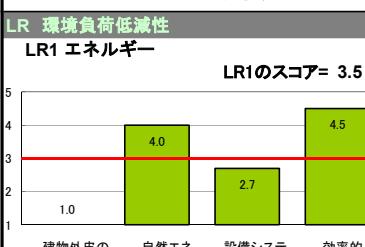
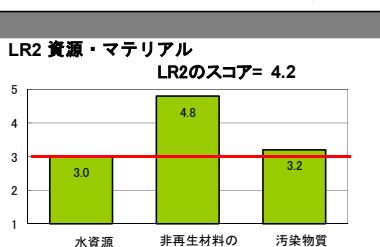
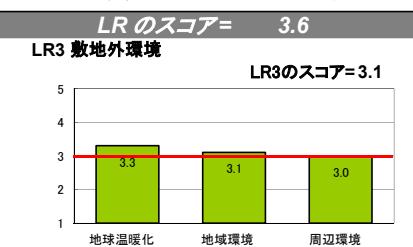
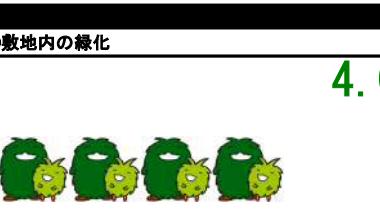


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)アドヴィックス半田工場 増築		階数	地上3F
建設地	愛知県半田市日東町4-29,4-24,3-6		構造	S造
用途地域	工業専用地域		平均居住人員	1,800人
気候区分	6地域		年間使用時間	3,904時間/年
建物用途	事務所,工場,		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定		評価の実施日	2018年2月14日
敷地面積	148,683 m ²		作成者	林 大輔
建築面積	40,060 m ²		確認日	2018年2月15日
延床面積	72,204 m ²		確認者	林 大輔

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.8						
Q 環境品質			Q のスコア = 3.6		LR のスコア = 3.6	
Q1 室内環境			Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
						
LR 環境負荷低減性			LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境	
						
3 重点項目						
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化			④地域材の活用		
						
各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。						
① 地球温暖化への配慮	外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)					
LR-3-1 地球温暖化への配慮	29.7 %					
② 資源の有効活用	建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積)					
Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性	0.0 %					
LR-2-2 非再生性資源の使用量削減						
③ 敷地内の緑化						
Q-3 生物環境の保全と創出						

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮

LR-3-1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用

Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性

LR-2-2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化

Q-3 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指標} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面積}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指標} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



3 対応性・更新性			0.2	4.5	0.29		-	4.5
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり				5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31			
3.3 設備の更新性				4.5	3.8	0.38		
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				5.0	0.11			
4 通信記録の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				5.0	0.22			
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22			
G3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出	独自③			4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40			3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.03			1.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.27			4.0
3 設備システムの高効率化				2.7	0.42			2.7
4 効率的運用				4.5	0.28			4.5
集合住宅以外の評価				4.5	1.00			
4.1 モニタリング				4.0	0.50			
4.2 運用管理体制				5.0	0.50			
集合住宅の評価				-	-			
4.1 モニタリング				-	-			
4.2 運用管理体制				-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	4.2
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雜排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				4.8	0.63			4.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用	② 独自			5.0	0.25			
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.21			
2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68			
1 消火剤				2.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	①	CO2排出量91%		3.3	0.33			3.3
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	独自	適切な駐車場の確保。		5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	独自			3.0	0.33			
2 振動	独自			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	0.30			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.20			
3.3 光害の抑制				3.0	0.70			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.30			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート
(仮称)アドヴィックス半田工場 増築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				4.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.12	外構緑化:29.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{（評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{重みの総和}}$
 重点項目スコア=

④地域材の活用
 重点項目スコア=評価ポイントの合計 + 1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)アドヴィックス半田

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と、建物の長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高3.9m以上確保し、空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の植栽条件に合った適切な緑地作りを目指す。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 年間エネルギー消費量の目標値を設定し、効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル材を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。